

分 担 研 究 概 要

国立武蔵療養所神経センター
有 馬 正 高

発達障害には、知能、言語、運動、感覚などのおくれや偏りが含まれているが、いずれも、中枢神経系に問題があるとみなされるものである。中枢神経機能の発達には、固有の生化学的、解剖学的構成の変化とともに、感覚体験を通じての外界からの情報の積み重ねが不可欠な要素とされる。個体特性と家庭その他の外界から働く環境要因の両面からの考慮が必要である。

中枢神経系の一部に変化があれば、同じ情報が与えられても、それを記憶し、統合し、状況の変化に応じて動作もしくは行動する機能の発達過程にも変化を生じうる。中枢神経系のもつ多面的な構造や機能のなかで、どの部分にもっとも問題があるかを明らかにすることは、その子どもに対するアプローチを定める上に重要である。これは、主に、医学的および発達心理学的面からの検討項目であるが、本年は、各研究協力者が相談を受けた精神遅滞児の認知障害に焦点をあて、精神行動発達面とどのように関与するかを整理していただいた。これは、各特徴をもつ精神遅滞の対策を立案実施し、その効果を評価する場合の出発点となるからである。薬物投与の適応の決定についても、このような分析にもとづく評価が出発点となろう。

医学的管理面での重要な問題として、中枢神経障害に重複しやすい痙攣の対策がある。抗けいれん剤を含む医療の関与の多い部分であり、発達への影響や日常生活の場面での対応など総合的対策が要望される。本研究は、病院に限られた場面の従来の知見を補足するため、家庭や社会における実情を調査したものである。ここで把握された結果は、医療に

反映すべきである。

障害児の問題が多岐にわたり、家族の率直な希望に適確に応えられる対策が限られているが故に、いろいろな施設めぐりが必然的に生じている。その問題についてはすでに多く論じられてきたが、家族の不安を反映していることは確かである。一方、専門病院に定期的に受診しつつ、近くの通園施設、一般の保育所、幼稚園に通う例も次第に増加している。

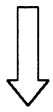
このように、多くの機関が子どもと家族に交流をもつようになると、相互に情報を交流するルールの確立が必要である。

本年度の分担課題に対する報告書は、諸般の事情から、各研究協力者が従来、福祉財団を核として継続した経験についての現状を発表していただくことになった。今後、それぞれの条件をふまえて、どう対処したら最善の効果が得られたかを明らかにした研究結果を示したい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



発達障害には、知能、言語、運動、感覚などのおくれや偏りが含まれているが、いずれも、中枢神経系に問題があるとみなされるものである。中枢神経機能の発達には、固有の生化学的、解剖学的構成の変化とともに、感覚体験を通じての外界からの情報の積み重ねが不可欠な要素とされ既个体特性と家庭その他の外界から働く環境要因の両面からの考慮が必要である。